

政治学概論Ⅰ

(10) 政治参加と多元的な社会

政治参加の方途

◆政治家（議員・首長）になる 選挙・政党というハードル

◆中間団体に所属して政治（的）活動をする

利益団体・圧力団体（労働組合、各種業界団体など）

市民運動

→政治的要求を持ち政党・首長・議員・行政・世論
（メディア）に働きかける

労働政策（労働条件）、環境政策、産業政策・・・

政治と市民との回路

中間団体＝本来の目的は政治活動ではないことが多い
ある共通の利益を持つ集団を代表して、政治活動を行う
→政策要求 政治の側の判断、その団体の影響力

◆政治献金・集票活動などの選挙支援◆
＝利益政治との関連

ある団体の利益は、他の団体・団体外の市民の利益と反する？
ある団体の政治的要求は、その他の人々の利益につながる？
→政治の難しさ

エリート民主主義と多元主義

代表者（選良・エリート）のリーダーシップ重視

= エリート民主主義 シュンペーター（米）

→政治家の資質、決定の制限、官僚制、民主的自制

※政治の安定性を重視

多くの利益集団の競合による権力と統治・複数の支配

= 多元主義、ダール（米）

→政治的平等、公的な異議申し立て、有効な参加と情報の普及

※政治の包括性を重視

現代の政治参加の状況

政治的無関心→利益集団の影響力低下（特に労働組合）

共通の目的のための「団結」より、個々の利益
薄らぐ「参加」の意欲と政治の「凝集性」「包括性」

自由主義と民主主義の両立→新たな局面に入る

「自由」な個人は、孤立化へ向かいがち？

「民主」の代表制が低下している？

統合する政治力の欠如